

都小視研会報

平成 29 年 2 月 14 日 (H27-3)

東京都小学校視聴覚教育研究会
URL <http://teav.csde.com/>
e-mail mail@teav.csde.com
通刊 315 号

事務局 台東区立金竜小学校
〒111-0031 台東区千束1-9-9
電話 03-3871-9893 Fax. 03-3871-9514

児童のやる気を引き出す授業をめざして

調布市立北ノ台小学校 校長
川島 隆宏

アメリカの教育者ウィリアム・ウォードの言葉
の一節に

平凡な教師は言って聞かせる

よい教師は説明する

優秀な教師はやってみせる

しかし、最高の教師は、児童の心に火をつける
というものがあります。

「心に火をつける」、つまり、児童のやる気を
引き出すことは私たち教師の永遠の課題でもあ
ります。その手段としては、教師の言葉であつた
り、授業の工夫であつたり、子ども集団の高まり
であつたり、教師の熱意であつたりと、様々なも
のがあります。学習に限らず、あらゆる活動にお
いて、その成果を挙げるためには児童の「やる気」、
児童自らがやろう、やりたいと思う気持ちに勝る
ものはありません。

授業における児童の「やる気」を引き出すため
要素として、目標の明確化（ねらいやめあてがは
つきりしていること）、方法の具体化（どうすれば
良いか、具体的な手立てがわかること）、成果の
確かめ（客観的に評価し、認め励まし、褒め、
ときには叱ること）などが挙げられます。
私たち（都小視）は、現代社会で使われている機
器を、教育活動の様々な場面において効果的に活
用し、学習内容に興味を持たせ、課題を明確にし、
ヒントや学習の見通しを持たせることで、「児童
が学習活動そのものへの興味・関心を高める」よ
うになり、自ら進んで考えたり、児童同士で相談
したり、解決手段や伝達手段などを工夫・改善し

たりと、「やる気」をもって教育活動に取り組む
ことをめざしています。

児童が、課題を明確にし、主体的にものを考え、
解決に向けて取組み、その過程を分かりやすく表
現・伝える力を育てるここと、児童同士の話し合い
や議論、協力した問題解決をとおして、学びをより
質の高いものに近づけていくことは、新学習指
導要領がめざす、アクティブ・ラーニングの視点
でもあります。

本年度も、各地区における授業研究や全国大会
での公開授業において、大型テレビやタブレット、
デジタルカメラ、コンピュータ等の機器を効果的
に活用することで、児童のやる気を引き出し、意
欲的に学習活動に取り組む児童の姿を見ることができ
ました。そして、最近では、日常の授業の中
で先生方が積極的に機器を活用している姿を
数多く目にすることになってきたことは、視聴覚
教育の裾野が広がってきたことを物語っている
と感じるところです。

今から 25 年くらい前、某区の視聴覚部の反省
会で、講師の先生が、「あと 20 年もすると、小
学生がランドセルに薄いノートパソコン 1 つだけ
入れて、学校に行く時代が来るかもしれません
よ」とお話され、その言葉に心を躍らされた記憶
があります。そうした環境はすぐそこまで來てい
るようにも思います。本研究会が積み重ねてきた
実践やノウハウが活かされ、都内の多くの学校に
広がることをめざして、更なる研究活動に取り組
んでいきたいと考えます。

2年 算数

「1000 より大きい数をしらべよう」

第2学年 2組 28名

授業者 T1 川上 学

T2 担任 坪谷 拓己

単元のねらい

【関心・意欲・態度】

- ・身の回りにある数に関心をもち、十進位取り記数法のよさに気づいて、日常生活や計算の仕方に活用しようとする。

【数学的な考え方】

- ・十進位取り記数法の仕組みを考え表現したり、数を相対的な大きさからとらえたりすることができる。

【技能】

- ・4位数について、書いたり読んだりするとともに、数や式の大小・相等関係を、不等号や等号を用いて表すことができる。

【知識・理解】

- ・4位数について、数の読み方や表し方、数の構成や大小、順序、数の相対的な大きさを理解する。

単元について

第1学年第15单元「おおきいかず」や第2学年第5单元「3けたの数」では、10や100のまとまりをつくりながら数える活動を通して、数の読み方や書き方を学習した。また、「100を3こ、10を2こ、1を5こあわせた数は325」「230は100を2こと10を3こ集めた数」など数の構成や相対的な大きさ、系列や大小、数と式の大小や相等関係を、不等号や等号を用いて表すことも経験した。本单元では、数範囲を10000まで拡張して十進位取り記数法について理解を一層深めていく。

学習指導計画

時 1 本 時	学習内容	教師の支援	情報手段
1	○2354枚の1円玉の数を工夫して数える。	・実物の1円玉を用意する。 ・3けたの学習を振り返る。	電子黒板 教材提示装置
2	○二千三百五十四を数字で書く。 ○用語「千のくらい」を知る。	・位取り板や数カードを活用する。	電子黒板
3	○4位数を読んだり書いたりする。	・空位は〇を記入することに気をつけさせる。	電子黒板
4	○位取り板や数カードを使って、各位の数を読み取ったり、表したりする。	・位取り板や数カードを活用する。	電子黒板
5	○4位数の構成を基にした表し方を理解し、練習する。	・位取り板や数カードを活用し、各位の数字の意味を明確にする。	
6	○数構成について考え、計算する。	・100を10こまとめて1000に置き換えるとよいことに気づかせる。	
7	○数直線を読み取ったり、数直線上に数を表したりする。	・一番小さい1目盛りがいくつなのかを考えさせる。	電子黒板

8	○千を10こ集めた数が10000であることを知る。	・1つのまとまりが100で、1列が1000であることを確かめさせる。	電子黒板
9	○数直線を読み取ったり、数直線上に数を表したりする。	・1目盛りの大きさが100であることをとらえさせる。	電子黒板
10	○3800を多様な見方でとらえ、言葉や式で表す。	・教科書の3人の考え方を説明させる。	

本時の指導

ねらい

- ・10000未満の数の数え方と命数法、記数法、4位数の位取りの仕組みを理解する。

展開

	学習活動	教師の支援	情報手段
導入	1000より大きい数をしらべよう	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとに、123枚の実物の1円玉を数える。 ○2354枚の1円玉を、どのように数えればよいか考える。 	 デジタル教科書の提示
展開	○ワークシートに書いてある1円玉の絵を、100の束、1000の束に分ける。端数も、10の束、1の束に分ける	<ul style="list-style-type: none"> 10の束にすると数えやすいことを振り返らせる。 2354枚の実物の1円玉を用意し、数の大きさを実感させる。 「3けたの数」の学習を振り返り、100の束にして数えると数えやすいことに気づかせる。 デジタル教材を使い、100の束を視覚的に捉えさせる。 	
まとめ	○1円玉の枚数が二千三百五十四になることを、絵を使って説明する。	<ul style="list-style-type: none"> 千を2こ集めた数を二千ということを確認する。 	教材提示装置

都小視研「研究のねらい」における位置付け

<単元／本時>

- ・デジタル教科書を活用することにより、「問題場面」に関心をもち、的確に題意をとらえることと発表検討場面で児童の理解が深まることが容易になる。
- ・電子黒板を活用することと半具体物を活用することが、自分から進んで考え・解決することに有効である。

[都小視研の評価規準]

- ・電子黒板の活用が、児童が興味・関心をもち、題意を的確にとらえることに効果的であったか。
- ・電子黒板が、児童の思考を促すことに有効であったか。

4年 道徳

「相手の立場に立って」

第4学年4組 34名
 指導者 (T1) 江戸川区立東小松川小学校
 長澤 誠
 (T2) 江戸川区立篠崎第二小学校
 北浦 明人

資料名

「だれを先に乗せる?」(出典: NHK for school)

主題設定の理由

本主題は、内容項目2ー(2)「相手のことを思いやり、進んで親切にする。」を受けたものである。これは、相手の気持ちを理解し、相手に対する思いやりや親切な心をもち、実践できる児童を育てようとするものである。

身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることは他の人に接するときの基本的姿勢である。しかし相手を見た目だけではなく、接することによって相手の現在の状況、困っていること、大変な思いをしていることなどを想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるよう指導していくことが大切である。

本単元では、話し合い活動を通じて「思いやりの本義」についてあらゆる方向から考え、思いやりの心を育みたい。

本時の指導

ねらい

- ・資料「だれを先に乗せる?」の誰を優先して乗せるかについて考える対話活動を通して、外見や都合にとらわれることなく、相手の様子や状況を推し量り、親切にすることの大切さをとらえることができる。

展開

	学習活動	教師の支援	情報手段
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○人に親切にした経験があるか聞く。 ○親切とはどんなことだと思うか? 課題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・番組視聴への導入。自己の体験を話すことでねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。 ・どのような気持ちから親切な行動をしたか、理由も述べさせる。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○番組前半(3分47秒まで)を視聴する。 (山道でバスが故障し5人が困っている。コジマくんが運転する車に3人まで乗せられる) ○誰を先に乗せるか?選んだ3人をクリッカーのアンケート機能に入力する。 ○アンケート結果を表示し、数人発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリッカーのアンケート機能を用いて、誰を乗せるか3人選ぶ。 ・教師用タブレットで児童から集約したアンケート結果(グラフ)を電子黒板で表示する。 ・誰を乗せるか自由に発言させ、状況を把握させる。 ・車に乗せる理由を答えさせる。 	 電子黒板  タブレット (教員用)  クリッカー タブレット (教員用)

	<p>○番組後半（3分47秒～10分）までを視聴する。 (5人が乗せてほしい理由を話す)</p> <p>○選んだ理由をワークシートに記入する。</p> <p>○コジマくんはどうしたら良いかグループ内で話し合う。</p> <p>○先に乗せる3人を選びクリッckerで入力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コジマくんの状況について登場人物の写真等で簡単に場面を振り返る。 ・お互いを大事にした、より良い行動選択を考えさせる。 ・1回目の選択との違い（2回目は相手の立場や状況を聞いていること）をおさえる。 ・話合いの結果、何を優先して順番を決めたか確認する。 ・教師用タブレットで児童から集約したアンケート結果（グラフ）を電子黒板で表示し、選んだ理由を数人発表させる。 	クリッカータブレット (教員用)
まとめ	<p>○今回の学習で思ったことをワークシートに書く。</p> <p>○数人発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で話した人に親切にした経験についても振り返る。 ・相手の立場になって一生懸命考えたことが「思いやり」であることにつなげる。 	電子黒板 タブレット (教員用)

都小視研「研究のねらい」における位置付け

<単元／本時>

- ・「NHK for school」を活用することにより、誰でも手軽に目的に合った動画を視聴することができる。また、動画であるため、場面の様子や登場人物の気持ちが文字だけのものよりも想像しやすくなる。
- ・クリッカーのアンケート機能を活用することで、一人一人の意見を瞬時に集約することができる。

[都小視研の評価規準]

- ・「NHK for school」は、児童が興味・関心を持ち、課題を的確にとらえることに効果的であったか。
- ・クリッckerの活用は、児童の思考を集約するうえで有効であったか。

6年 総合的な学習の時間

マイ・ルールをつくろう！

～事例に学ぶ情報モラル～

第6学年2組 38名

指導者 鵜川 孝之

(大田区立大森第一小学校)

単元のねらい

情報社会の特性を理解し、情報化の影の部分に対応し、適正な活動ができる考え方や態度（情報モラル）を身に着ける。

単元について

日々、日本中で、スマートフォン・携帯電話や SNS にかかる事件が起きている。本単元では、よりスマートフォンなどの活用が進むであろう中学進学を前に今までのインターネットの活用を振り返り、まとめる学習を行い、よりよくインターネットを活用していく力を身につけさせる。単元のはじめに、今までの学校内外の情報活用を見直し、誰もが被害者になる可能性のあることを知る。そこで、インターネットは怖いものだが、上手に付き合うにはどうするかを考える。実社会でもルールを守ることが上手に社会生活を送るために必要なことから、自分のインターネットを使うまでのルールを考えていく。自分なりのルールの完成後、インターネットセキュリティーの専門家から、具体的な事例とインターネットと上手に付き合うコツを学び、ルールに修正を加える。これらの自分のインターネットを使うまでのルールを「マイ・ルール」として、まとめていく活動を通して、今後よりよくインターネットを活用できるようにする。

学習指導計画

時	学習内容	教師の支援	情報手段
1	○「情報モラル」という言葉の意味を考える。 • 5学年で学んだ情報モラルを振り返る。 • パソコン・スマートフォン（携帯電話）・インターネットについて、アンケートを実施し、インターネットの便利なところや怖いところなど、自分の知っている情報でたくさん意見を出し合う。 • パソコン・スマートフォン（携帯電話）・インターネットを使用する際のルールを出し合う。	• インターネットの普及でより簡単に情報が手に入り、生活が豊かになってきたことに気付かせる。 • パソコン・スマートフォン（携帯電話）・インターネットの使用方法を振り返らせる。 • 「情報モラル」についての関心・意欲を高めるようにさせる。	• 書画カメラ
2 本時	○インターネットや携帯電話を使うときにはどのようなことに気をつけなければいけないのか話し合う。 • 「“ウチら”的ルールとわが家のルール」を視聴する。 • 「ネット社会のルール【マイ・ルール】」を作る。	• 動画の主人公と自分を比較しながら視聴させる。 • 私たちの身の回りにはいろいろなルールがあり、ルールを守ることはみんなが安全で快適な生活を送るためにとても大切であることに気付かせる。	• 電子黒板 • 書画カメラ • パワーポイント
3	○外部講師を招き、情報モラルについて事例を交えながら学ぶ。 • 「ネット社会のルール【マイ・ルール】」を加筆・修正する。	• 自分自身にも起こりうる問題であることを認識させる。	
4	○情報モラルについて学んだことを、新聞やポスターにまとめる。	• キーワードとなる言葉を想起させる。	• 電子黒板 • パワーポイント

本時の指導

ねらい

- ・友達同士の携帯電話のメールのやりとりで起こった事例を通して、ルールの大切さに気付き、ネット社会をよりよく生きるためにルールを考えることができる。

展開

	学習活動	教師の支援	情報手段
導入	○前時の学習を振り返る。	・前時での話し合いを振り返らせる。	掲示物 パワーポイント
展開	○「“ウチら”のルールとわが家のルール」を視聴する。 ・動画の主人公「ミサキ」の立場になってミサキの行動を予想し、話し合う。	・「ミサキ」の友達の立場になって話し合いをさせる。 ・「ルールを守ること」は「自分を守ること」になることに気付かせる。	 電子黒板
まとめ	○インターネットや携帯電話を使うときには、どのようにことに気を付けていくのかまとめ る。 ・「ネット社会のルール【マイ・ルール】」を作る。	・ワークシートに具体的に書くように声をかける。 ・ワークシートを基に「ネット社会のルール【マイ・ルール】」を作成させる。	 電子黒板 パワーポイント

都小視研「研究のねらい」における位置付け

<単元／本時>

- ・視聴覚機器や動画を活用することにより、児童の課題把握や思考を視覚的・聴覚的に補助し、児童の理解の向上を図る。
- ・情報化社会の問題を自分の問題として捉え、解決策を考えることで、課題解決能力を育む。
- ・講師の話から、安全なスマートフォンの使用方法を学び、自分で考えたネット社会のルールについて加筆修正を行う。

[都小視研の評価規準]

- ・実際の事例を通して、身近な問題だと捉えることができたか。
- ・ネット社会をより良く生きるためにルールについて、考えることができたか。

事務局だより

平成 27 年度の研究発表大会では、今回指導案を掲載した 2・4・6 学年の他、1・3・5 学年と特別支援学級の授業を公開しました。

学 級 教科等 単元名	授 業 の 概 要
1年2組 算 数 「すをつかってかんがえよう」	導入時にデジタル教科書の動画を提示し、問題文の内容を理解し、作図や立式をしやすくなることをねらいとしています。また、適応問題の発表時に、教材提示装置で児童の考えを電子黒板に映し出し、集団での検討がより効果的にできるようにします。
3年1組 理 科 「豆電球にあかりをつけよう」	電気を通す・通さないは、「物」で決まるのか「素材」で決まるのか、実験を通して考えていきます。 タブレット端末のカメラ機能を用いて実験結果を記録し、その結果を比較・整理して、きまりを探っていきます。
5年1組 学級活動 「情報モラルを身につけよう」	家庭にインターネット環境のある児童の中には、インターネットを使うことに不安や怖さを感じている者もいます。WEB教材で、個人情報のトラブルの具体的な事例をもとに、児童が必要感をもって身を守る方法を考え、日常生活の中で安全に個人情報を扱おうとする態度を身につけることを目指します。
おおぞら 日常生活の指導 「むしばきんをやっつけよう」	タブレットPCを使って、歯磨き前後の染め出しした歯の写真を撮ります。 撮った写真を大型モニタに映して全員で確認し、自分の歯の汚れに気付かせるとともに、歯磨きの大切さを視覚的にとらえさせ、自らていねいに磨こうとする意欲を高めることをねらいます。

■一緒に研究しませんか

本研究会では、区市町村の視聴覚部とタイアップした研究を行っています。一緒に研究をしたり、情報交換をしたりして、互いに高め合いましょう。気軽にご連絡下さい。

東京都小学校視聴覚教育研究会 HP <http://teav.csidc.com/>

メールアドレス mail@teav.csidc.com

都小視研会報 315 号 (H27-3) 平成 29 年 2 月 14 日
発 行 東京都小学校視聴覚教育研究会
責任者 会 長 古 谷 尚 律
事務局 台東区立金竜小学校
編 集 事務局 会 報 部
印刷所 タマタイプ Tel 042-562-0965